

# わくわく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol.17 2005.2

<http://fukakoku.net/>



↑ '交換留学生宿泊研修-茶道体験



↑ '交換留学生宿泊研修-茶道体験



↑ 交換留学生宿泊研修-切絵体験



↑ 交換留学生宿泊研修-切絵体験



↑ '04 インターナショナルデー



↑ '04 インターナショナルデー

# '04 青少年カナダ交流訪問団報告

2004年7月26日から8月10日の行程で実施された青少年海外派遣事業（青少年カナダ交流訪問団）の報告として、参加された皆さんに想い出を綴ってもらいました。

## プロローグ 国際交流は人生の出会いの種

深川国際交流協会副理事長 谷口 保幸（団長）

カナダへの期待と希望を胸に高まる鼓動と気持ちを押さえながらも中学生5名と私たち引率2名が母なる国、「日本」との暫しの別れである。

JAL12 便の機内からは遠くの間山々と果てしない大空の眺めも、あっという間に雲海の中へ・・・

7回目を迎える青少年カナダ交流訪問団事業も今回からは中学生だけの少数精鋭、事前研修を含め、まとまりのあるグループで出発することが出来ました。

スローガンのチャレンジ・エニスイング(何でも挑戦)を合言葉に、子どもたち自ら選曲して、すべて英語で歌う「ハッピーディー」、そして「世界にひとつだけの花」。歌詞の一節に「一人一人違う種を持つ、その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」

まさに、21世紀国際交流の目標を歌に託した素晴らしいパフォーマンスの完成と自主性を持つ2週間の研修が始まりました。

毎日が驚きの連続で歓喜あり、ハプニングあり、すっかりカナダの生活にとけ込む姿が、次第に自信に満ち溢れた行動となり、彼らがとても頼もしく思いました。

ウォータースライダー・バンクーバー・ビクトリアのフィールドトリップ(見学旅行)、特にチリワックパークでの一泊二日のキャンプは生涯忘れない思い出になったことでしょう。私にとっても岩盤の登山ハイキングは体力の限界を知ることになりました。

ホストファミリーの娘や息子のように接する温かい心に触れ、涙と感動に満ち溢れた目の輝きは、将来の夢につながる大きな宝物を発見し

たようです。

今回、このような機会を与えていただいた深川市・そして国際交流協会の皆様に感謝申し上げますとともに、素晴らしい体験が出来た5名の子どもたちはカナダで蒔いた「出会いの種」で人生の大きな目標として、必ず国際社会で活躍してくれることを願うところであります。

## 日程・メンバー紹介

月日	主な研修内容
7.26	■ 出発～バンクーバー国際空港へ
7.27	■ 英語の授業
7.28	■ 英語の授業、カルタス湖見学
7.29	■ 英語の授業
7.30	■ ビクトリア市内見学
7.31	■ ホストファミリーと過ごそう
8.1	■ "
8.2	■ 英語の授業、アグリフェア見学
8.3	■ キャンプ1泊2日
8.4	■ "
8.5	■ 英語の授業、グランヒルアイランド、スタンレー公園散策、キャピラノ渓谷
8.6	■ お別れパーティー
8.7	■ ホストファミリーと過ごそう
8.8	■ "
8.9	■ バンクーバー国際空港出発
8.10	■ 帰国～深川へ



**半澤郁奈美**  
(リーダー)  
深川中学校3年



**長澤まりな**  
(サブリーダー)  
一已中学校2年



**後藤 翔栄**  
一已中学校2年



**星野 果歩**  
一已中学校2年



**森川 麻美**  
深川中学校2年



**谷口 保幸**  
(団長・引率)  
深川国際交流協会副理事長



**佐藤 亜矢**  
(副団長・引率)  
深川国際交流協会理事

『カナダに行ける』

ただ自分の世界を広げてみたい一心で応募したものの、カナダについて知っていることはほとんどなかった。大きな土地、メープルの葉、アメリカみたいなどころ。しかし、行ってみるとたくさんのことがわかった。土地も人もモノもすごく大きかった!!!

けど、もっと広いのは人の心だ。誰とでも仲が良いというのは日本人にはあまり考えられないこと。そしてアメリカみたいというのは全然違っていた。カナダ人はアメリカと一緒にされるのを嫌がるし、アメリカは「自由の国」といっても差別が絶えないところだそうだ。『世界を広げたい』と思って行った私には『外国』ではなく『カナダ』に行けたことはすごく価値観を変えることのできる最高の機会だったと思う。カナダに行ったことで日本の良いところもわかった。

私はカナダに行けて良かった。マーフィー家に行けて良かった。色んな

ことを教えてくれて、いつも明るくおもしろくて、優しいホストマザー・ドナが大好き。やさしくて料理の上手なホストファザー・ボブも、おもしろいホストカズン・お兄ちゃんも好き。あまり会えなかったけどホストの娘のアシュリーも優しかった。私も何人かの生徒のうちの一人名になってしまいかもしれないけど、16日間マーフィー家にホームステイしたことを一生忘れないと思う。

今、考えると16日間なんてあっという間だった。本当にユメみたいだった。ブッチャートガーデンは不思議の国のアリスみたいだし、色んなものが可愛かった。これからもとの生活に戻るとというのが信じられない。この16日間で私は変わった!!!というところは自分ではわからないけれど、色々なものを見つけた気がする。優しく忘れられないカナディアンの人

たちや、はじめて挑戦したたくさんしたこと。そして将来は海外の人とかかわる仕事を本気でしたいと思ったこと。今までなりたいたいのなんてなかったけど、なりたいたいのが見つかった。毎年高校生を含めて10人で行っていたのに、今年は中学生5人で少ないから盛り上がりがないかもしれないと思っていたけれど全然そんなことはなかった。逆にすべてのことを5人で出来て良かったと思う。

カナダに行けたこと、両親がその機会を与えてくれたこと、マーフィー家に行けたこと、先生がマーニーだったこと、その他すべての巡り合わせが最高に恵まれていると思った。たくさんの方に感謝しています。

いつかまた必ずカナダに行ってホストファミリーやマーニーに会いたい!!!

カナダ大好き!!!

## 楽しかった夏休み

今回私はカナダに行って色んなことを経験させてもらえました。外国に行くことは初めてで、カナダで2週間ホームステイすることも本当に毎日ドキドキで何もかもがわからない状態でした。

まず、出発の日の1日目。その日はまだカナダに行くということを自覚していませんでした。飛行機に乗っていても、「夢の中なのかな?」と何度も思いました。それほど私の中ではこの冒険が夢のようだったのです。

そして、カナダに着いた時、待っていたのは、マーニーでした。その人はモデルのように美人でした。マーニーは本当に優しく、気がきく先生でいつも頼ってばかりでした。マーニーには、本当に大変お世話になりました。

そしてこの2週間の中で一番楽しかったのは?と聞かれても、すべてが楽しかったので一つにしばるのは難しいです...(笑)。そこで、ウォータ

ースライダーのこと、キャンプのことを書きます。

始めにウォータースライダーは、色々な種類があって、最初にどこから乗ろうかと迷うぐらいでした。そして、一番急なものは90度近くあって、最初は怖くて乗れないなと思っていましたが、一瞬間の中にある文章が流れたのです。それは私達のスローガン“Challenge Anything(何事にも挑戦)”でした。ここで諦めたら一生悔いが残ると思い、決心して挑戦しました。一瞬体が浮きました。滑り終わったら「おもしろい!」の一言でした。結局3回も滑りました。

次にキャンプは森の中という感じでした。山登りもしたし、洞窟にも入ったし、湖で泳いだし...。自然がいっぱいでした。一日目の夜に少し雨が降ってしまったけど、

みんなで“2人マイムマイム”をキャンプファイヤーの周りでやった時は本当に盛り上がりました。そして、そのあとに待ちに待った肝だめし。怖いけど、私は大好きなのです。森の中を歩いた時は、やっぱり怖くて寿命が縮まったような気がしました。このように、この2日間のキャンプは私の中で一番印象深い楽しいキャンプでした。

心に残っているのはお別れパーティーです。私のホストファミリーは全員参加してくれました。私達のパフォーマンスを見て、私のホストファミリーのお母さんとお父さんは感激してくれました。そして最後にマーニーから卒業証書を受け取った時は、今までのが持ちが涙に変わって出てきてしまいました。マーニーは「泣かないで」って言って涙をこらえているのがわかりました。

そして別れの日、何度も私達は空

港で「帰りたくない、カナダに残る」と言っていました。お別れは本当に悲しくて寂しくて…。今、この 2 週間を振り返ってみると、やっぱり夢のようだったと思います。

### [第 2 の家族]

私のホストファミリーは本当に優しい父・ルイスさんといつも明るくて頼れる母・バーバラさんと、いつも一緒にいた長男 6 歳ミヴァエルと、いつもはしゃいでいる次男 4 歳エズラと本当かわいい三男 2 歳ジョパーニの 5 人家族でした。1 日に家に着いたとき「マリーナ」「マリーナ」と何回も言われました。私は下に妹や

弟がいなくて、3 人弟ができたというのは初めてでした。どうやって遊べばいいのかもわからなかったし、何て話しかければいいのか、最初は全然わかりませんでした。その時はいつもバーバラやルイスに助けられました。いつも私に気を使ってくれ、食事私の好みに合わせてくれました。そして公園、湖、モール、図書館、プールなど色々な所へ連れて行ってくれました。本当に大変お世話になりました。あつという間に時間がたった 2 週間でした。

そして、お別れの日の前日、ルイスが日本語で「ココニキテクレ

テ ウレシカッタ。マリナニ アエテヨカッタ。トウキョウニ キヲツケテカエツテネ」と言ってくれました。バーバラが東京に住んでいる友達に日本語を教えてもらっていたのでした。私はそれを聞いたときは、思わず涙が出てきてしまいました。こんなに嬉しかったことはなかったです。

お別れは本当に悲しくて寂しかったです。私は何度も「Thank you」を言いました。

今、思い出してみると、すごく良い家族だったと思いました。

そして、またいつか会いたい。

## 短かった 2 週間 \_\_\_\_\_ 後藤 翔栄 (一已中学校 2 年)

カナダに行っていた 2 週間は毎日新鮮でアツという間に過ぎてしまった。

カナダに行っておどろいたことは、町中のあちこちにカナダのマーク(カエデ)がついているのにおどろいた。日本ではめったについていないのに、カナダでは土産屋はもちろん普通の店で売っているものやマクドナルドにまでついていた。あと、カナダの人がカエデのついた T シャツを着たりして、自分の国がすごく好きなんだと思った。

次におどろいたのは着いた日に学校に行くとき、うちのホストマザーが来たことだった(笑)。ホストファミリーの家は学校から車で 3 分ほどの所にあった。最初は、なかなかコミュニケーションがとれなかったが、ホストファザーが「一緒に野球を見ない？」と誘ってくれたりして、段々とうちとけていけた。僕のホストファミ

リーは、以前に 6 人の方を受入れられていて、さらに 8 月 10 日に 8 人目が来るというだけあり、色々なことに気付いてくれたりして、とても良い家族だった。朝はたまに起きられないこともあり、起こしにきてくれた。その家には階段をのぼってキッチンのすぐ横に引戸があり、そこには庭があって犬を飼っていた。僕は動物が好きなので、学校から帰ってきたら毎日その犬と遊んでいて、「君は動物がすきなんだね」と言われたりしました。

それからカナダの人は、休みの日やヒマな日は親戚の人や友達と遊びに来たり、反対に遊びに行っただけで夕飯をごちそうになったりしてました。何度か小さい男の子が遊びに来て一緒に遊んだりしていた。しかし、小さい子なのだが、当然英語を話すので、時々何度か

聞き返さなくてはいけなくて少しショックだった。今度は普通に会話ができるようになりたいと思う。

僕はこの 2 週間という期間の中でカナダの文化や自然などにふれることができ、大変貴重な体験ができたことはとてもうれしかった。しかし、今回は親や深川市の人々が協力してくれたことによって実現したわけであり、自分はほとんど何もしていない状態だったので、今度は誰の力を借りることなく自分の力でカナダの地をふみ、ホストファミリーのみんなやお世話になったマーニーなど、みんなにまた会いに行きたい。このように言葉では言い表せないことがカナダではたくさんあった。

最後に、カナダのみんなに、俺は何年たとうとも絶対会いに行くから、待っていてくれ!!

## すごく楽しかった Canada \_\_\_\_\_ 森川 麻美 (深川中学校 2 年)

一生忘れない宝物を手に入れることが出来た 16 日間でした!!!

何をやってもダメで、もちろん英語が一番苦手な教科。ハッキリ言って

不安だらけだった。そしてカナダに到着。

私たちの先生マーニーが空港で待っているはずなのに見過ごし

てしまって、どこにいるのかわからないというハプニングもあったけど、マーニーはすごく優しく親切で、日本語で「クマ」「校長先生」と話してい

るのをみんなで爆笑して、すごく楽しかった。もちろんウォータースライダーやキャンプなど、毎日楽しいことばかりで夢みたいだった。ウォータースライダーをやり過ぎて水着が少し破れていた。山登りはスゴイ崖のところを歩いたり、日本では歩けないような道をいっぱい歩いた。湖はスゴク綺麗で泳ぎたかった。ブッチャートガーデンの花も天気の良い日だったので輝いて見えた。カナダにいる間に 5 回くらい行ったショッピングモールはどこに何があるか大体分かるくらい、色々な所を回った。一番びっくりしたのがスーパーの大きさ。売っているものも大きければ店自体も大きいし、何もかもスケールが違った。ジュースの量も日本の M サイズが L サイズだし、飲み物に氷が入っていないのも驚いた。

#### 「CANADA の家族」

私のホストファミリー、お父さん

の Brett、すごく身長が高くて料理を作るのがとても上手でマッチョなお父さん。お母さんの Illana、すごく優しくてゆっくり話してくれたり、毎朝寝坊する私を優しく起こしてくれたりと色々迷惑を掛けました。一番上のお兄ちゃんの Travis (17) は、お父さんと同じくらい身長が高くて信じられない事に胸にピアス…。あまり家に居なくて少ししか話せなかったけどカッコイイお兄ちゃんでした。妹の Courtney (13) は妹だなんて言えないくらい大人っぽくて美人と一緒にテレビを見たり、映画館に行ったりとすごく Courtney といると楽しかった。弟の Riley (13) は Courtney と双子。1 から 10 の数字を日本語で数えたり、「オヤスミ」と言ってくれてすごく嬉しかった。見た目は大人っぽくて身長も高くて美形なのに中身はまだ 13 歳だった。

私の家はスポーツ家族で Travis と Riley はアイスホッケーをやっている、Courtney は水泳をやっている家にはダンベルとかがたくさんあった。しかも家の飲み物は水がミルク。たまにオレンジジュースもあった。

最初に会ったときは、頭が真っ白で言っている英語もほとんど分からなかったけど、みんな優しくてスゴク面白くて、少しは英語が分かるようになった気がします。短い間だったけどこのスポーツ美形 family が大好き。

今度来る時は英語の勉強をもっともってしてから、もう一度会いたい!!!!

CANADA が大好きになったし、日本のことも少し見方が変わった気がします。

## I like Canada very much!!

星野 果歩 (一已中学校 2 年)

私は、カナダで過ごした 16 日間、本当に幸せでした。

カナダに行く前は、ぜんぜん実感がありませんでした。参加した時も、16 日間も知らない家で、言葉の通じない人達と一緒に過ごすことなんて、深く考えてなくて、ただ外国に行ったことがないから、行けるなら行ってみたいなあ、思ったくらいでした。自分が参加したことから、それは運命でした。

カナダに着いた瞬間から、もう外国という感じで、そこでの最初の出会いはマーニーでした。マーニーは、いつも優しく、楽しくて、子供もいるというのにかなりおちゃめな人でした。

私達は日本語ばかり使うし、迷惑もたくさんかけたと思うけど、いつも笑顔で明るくしてくれたマーニーが大好きです。

次の出会いは、とてもお世話になったホストファミリーです。私のホームステイ先の Talvio 家のお父さん Les は荷物を持ってくれたり、TV を

見てて急に笑いだしたりする優しく楽しい人。お母さんの Kristin はどこに行くときでも、「忘れ物はない?」とひとつひとつ聞いてくれた気のきく人。ひとつ上のお姉ちゃんの Lia には日本の MD や雑誌、プリクラなどを見せたり、逆にカナダの物を見せてもらったり、プーさんやキティーちゃんの話や学校のことなど色々話したりした。それと犬 1 匹、猫 2 匹の合計 3 人家族 + 3 匹でした。お兄ちゃんもいるはずだったけど、その時はいませんでした。でも、一番上にもう一人お兄ちゃんがいる、そのお兄ちゃんとはホストファミリーの家に行ったり、来たりもしました。

このファミリーはキャンプが好きなようで、2 回もキャンプに行きました。そして、プールに入ったりバレーをしたりしました。たくさんお友だちを呼んで、家族お気に入りの歌手が出る TV を見たり、教会や買い物にも連れて

行ってくれました。

行く前から、どんな家族だろうかと、そればかり心配していたけれど、とってもステキな family でした。私の英語が通じなくて困ったこともあったけど、ちゃんと聞いてくれたし、話すときはゆっくり話してくれ、それでもわからない時は何度も言ってくれました。Talvio 家にホームステイ出来て本当に良かったです。

日本に帰ってきてからも、マーニーとリアにメールをすると、すぐに返信してくれました。すごくうれしかったです。全て英語で送るので大変だけど、これからも続けていきたいです。

そして訪問団のみんなで行動したことも、もちろん楽しかったです。ウォータースライダーや、ピクトリア、ブッチャートガーデン、ミルレイク、キャンプ、キャピラノ、乗馬など色々なところに行きました。なかでもキャンプは、コーディネーターのダン、レイチェル、テイラー & ナタック (犬) とも出会えて、かなり険しい山道を登ったり、夜遅くまで語っていたり、冷

たい湖で泳いだり、すごい洞窟を探検して、とっても楽しかったです。

この16日間は、楽しいことしかありませんでした。たくさんの人との出会いや、いろんな経験を通して、私は成長することも出来たと思います。今振り返ると、夢のような出来事だっ

たけど、心の中にひとつひとつすごく鮮明に記憶に残っています。

カナダに行けて良かったと心から思えるし、この思い出を絶対に一生忘れることはありません。私はもう一度大好きなカナダに、大好きなホストファミリーと、マ

ーニーやたくさんの方々に会いに必ず行きます。だからこの経験をここで終わらせないで、未来につなげたいです。

I was having a great time.  
Thank you!!

## エピソード

深川国際交流協会理事 佐藤 亜矢（副団長）

「初めて海外で2週間生活をす

る」これは中学生にとっては一大チャレンジです。大丈夫かな、と引率が決まった当初はかなりやきもきしていたものです。

しかし、出発前の事前研修を重ねるにつれ、この子たちならなんとかやっていけるかな、という気持ちが大きくなりました。

そして、その予感的中。カナダでの16日間は感心するくらいすべての行動に積極的にチャレンジしていく姿をとて頼もしく見ていました。（ちょっと元気が良すぎる所もあったけどね）

Challenge anything"の目標を実際に見事に達成しましたね。その目標のおかげで私もウォータースラ

イダーの一番急な滑り台にチャレンジすることができました。

誰かホームシックにでもなるのでは、と心配したりもしたけど、2日間英語漬けで不安がっていた週末も見事楽しい週末に変えていたようです。おかげで、私も思う存分自分のホストファミリーと楽しむことができました。普段高校生たちに英語を教えている私ですが、ふと、なんで英語を勉強しなければならぬのか、という疑問を投げかけられたり、自分自身でもそう感じたりすることがあります。その答えはカナダにありました。英語を通してたくさんの人に出会って、話をして、その国が好きになる。これは単純に楽しいことです。

そして中学生の若いみんなにとっては可能性を広げる大きなきっかけとなることです。もっと英語を勉強してカナダに絶対戻るんだと、今回の経験を通して5人とも強く思ったようです。こうやって国際交流の芽が着実に深川とアボツフォードで育っていくのは素敵なことですね。みんなもっともっと英語を勉強して自分の世界を広げていってくださいね。そして、それと同時に日本のそして深川の良さを伝えられる人になってくださいね。

It's been nice meeting

## 高校生の交換留学制度について

市では、平成13年にアボツフォード市との高校生の交換留学制度を創設しました。

平成13年度は、アメリカ合衆国の同時多発テロ事件が発生し、平成15年度はSARSの発生でいずれも事業が中止され、今年で2回目の実施となりました。

今回は、10月3日～11月27日までの8週間、アボツフォード市の高校生3人を受け入れ、12月17日～2月13日までの8週間、深川市から5人の高校生を派遣いたしました。

氏名	学 校	学年
工藤 大揮	北海道立深川西高等学校	1年
ジェイ サグムン	パート・ベイマン セカダリー スクール	1年
栗原 秋恵	北海道立深川東商業高等学校	1年
サラ シェルビィ	パート・ベイマン セカダリー スクール	1年
森川 絵梨	北海道立深川東商業高等学校	1年
キャサリン バストゥ	パート・ベイマン セカダリー スクール	1年
佐藤 万里子	北海道立深川西高等学校	1年
新谷 夏未	北海道沼田高等学校	1年

# カナダからの交換留学生を受け入れた感想

## ホストファミリーとなって

森川 敬三

昨年10月3日夜より、カナダ人キャサリン・パストゥさんが2ヵ月間、我が家の一員となりました。

1ヵ月前、市役所企画課の人より、交換留学生の受け入れの要請があり、当初妻の仕事や部屋がないことから、お断りしていたのですが、長女が交換でカナダへ行くこととなり、少しでも友達になって、英語に慣れればという思いで、受け入れを承諾いたしました。その後の2・3週間は、部屋はどうか、机はどうする等、パタパタな日々が続きましたが、なんとか受け入れる準備ができました。

受け入れ前は、言葉・食事・生活環境の違いなど、家族でどうなるか不安がありましたが、いざ来てしまうと、そんな不安も無くなってしまいました。

キャサリン 17歳、カナダアボツフォードの女子高生。10月3日夜、市役所会議室で初めて見た時は、口元にピアス、黒のアイライン、今後がどうなることや、と少々不安になりました。市役所から我が家へ帰る山一線通りの車の中で外を見て、日本語で一言「日本の家小さいね」。外国から見ると、やはり日本の家はウサギ小屋なのかなと思いました。後で聞いてみると、「かわいい」と言いたかったようです。家に着き、早速、部屋・トイレ・風呂等家族が案内し、一通り終わると、夜12時近いというのに、キャサリンのおみやげ披露がはじまりました。かなり分かりやすい日本語で、一つ一つ家族に渡してくれ、私たち家族も彼女も興奮ぎみだったせいか、その日は夜中1時すぎまで、あれこれ話を(もちろん日本語で)しました。

さていよいよ、2ヵ月間のホストファミリーのはじまりです。

言葉・食事の心配は1・2日目でなくなってしまいました。4年間勉強した日本語はかなり分かりやすく、「日本食大好き」と言うだけあって、朝から、ごはん・味噌汁を上手な箸使いで食べていました。なにより、

積極的に馴染もうという姿勢で、何にでも興味をもち、コミュニケーションをとっていたことが、私たち家族にとっては楽でした。長女とは、趣味の映画鑑賞(特にホラー映画)の話で盛り上がり、毎夜DVD鑑賞会で、話題は尽きませんでした。平日なのに、夜2時3時まで居間でDVDを観ていたのには、少々閉口しましたが。



彼女はショッピングが好きで、家族と色々出かけました。旭川イオン・サティ・札幌ステラプレイス・狸小路、人気の旭山動物園など、また、映画も観ました。シネコン・スガイディノス(ここは留学生割引がありました)など。そして一緒に食事などしていると、かならず子供が“外人さん”と言って彼女をジッと見ているのを、彼女は嫌がっていました。アボツフォードの学校では、色々な国の人が学んでいるため、誰もが“外人”をほとんど意識しないようです。もちろん、アボツフォード市民も同じでしょう。

例年ですと、11月ともなれば雪があっっておかしくないのですが、なぜか雪が降らず、学校も自転車で通って、楽だったようです。ただ、クラスメートからは、毎日ブリクラ攻勢に遭い、少々お疲れの様子でした。途中一回、行方不明事件がありましたが、これも今になっては、笑い話です。

1ヵ月も経った頃には、すっかり生活にも慣れ、中学生の次女には、英語を教えてくれたり、長女にもカ

ナダでどのように生活したらよいか教えてくれたりと、家族の一員になっていました。私も少しくらい英語を話せるようになるかと努力したのですが、昔習った和製英語が抜けず、残念ながら会話までには、いたりませんでした。

2ヵ月が経ち、帰国の前日には、皆で中華料理を食べ、カラオケに行き、卓球をして、お別れ会をしました。思えば日本食が大好きと聞き、ラーメン・うどん・すき焼き・すし・鍋物と、色々食べましたが、どれもおいしかった、と喜んでいました。

このようにして、我が家のホストファミリー期間は終了しました。

深川に住んでいると、普段の生活の中で“外人”に接することはほとんどなく、ましてや英語で会話することなどまったくありません。今回のホストファミリーという体験により、英語・世界・生活環境・外国人と様々な面で、勉強させられた気がしました。特に、キャサリンはカナダ人とアメリカ人は全然違う、ということを強調していました。ですから、“外人”=カナダ・アメリカ・イギリス人等々まとめて“外人”と言われる事を嫌っていたと思われる。カナダ人であることに誇りをもっていました。



またホストファミリーになるか、と聞かれると「???」です。今回は非常によかった例と思えるからです。しかし、市の交換留学制度は今後も継続して頂きたいと思います。最後に、国際交流協会及び市役所企画課の皆様には本当にありがとうございました。

## 交換留学生を受け入れて

栗原 玲子



8週間。そんな長い間よその大事なお子さんを預かるなんて、と、最初はとても不安でした。また、事前にいただいた留学生の情報も限られていて、顔も知らない状態での受け入れに戸惑いもありました。一体、どんな子が、どんな期待を持って留学してくるのか？また、我が家がどれだけそれに応えてあげられるのか？そもそも、英語が話せないのにどうやって意思の疎通を図るのか？心配の種は尽きることなく、たぶん長く大変な8週間になるだろうな、と予想していました。でも、実際にはあっという間に留学期間は終わっ

てしまい、今思い出されるのは、楽しかったこと、うれしかったことばかりです。

サラが滞在していた8週間は、主人も私も娘が一人増えたような気持ちでいました。実際に私たちをお父さん、お母さんと呼んでくれました（もっとも、一緒にいる時間があまりとれなかった主人は、「俺、“お父さん”って3回くらいしか話しかけてもらえなかった…」と、少し残念がっていますが）。基本的に学校がある時期だったので、毎日お弁当を持って、長女の秋恵と自転車通学し、休日は居間で一緒にのんびり過ごしたり、皿洗いを手伝ってもらったりしました。祖父母が来た時には一緒に動物園に行ったり、秋恵や次女のバレーの試合の応援に行くなど、ごく普通に家族の一員として過していました。また、我が家の家業にも貢献してもらいました。海外からの宿泊予約にメールで返信する際、英

文を添削してもらったり、宿泊客と英会話で“国際交流”してもらったり、りんごの収穫作業をしてもらったり、などなど。これはサラにとっても、おもしろい経験だったのではないかと思います。心配していた言葉についても日常生活を送る上では何も問題はありませんでした。

ただ、やはり英語をもっと勉強しておけば、お互いのことをよりわかりあえたのにと、少し残念な気持ちです。サラや秋恵にとって、今回の交換留学を通して友達になれたことはとても素晴らしいことです。このあとお互いの日常生活の中で、さらに見聞をひろめるなど、自分を高めていくことで、さらに交流は深まるはずです。今後も二人が、よりお互いの心を通いあわせて成長してくれることを、お父さんも、お母さんも願っています。

## 素敵な出会い

芹田 則子

この度、縁が有りましてカナダアボツフォードの高校生を受入れ出来ましたことに感謝致します。最初は不安でしたし、私にはできないと思っていました。しかし、市の企画課の方々の説明を受けるうちに、「孫もカナダでお世話になるということは先に受入れることが当たり前ではないのだろうか」ということに気づきました。

ジェイ・サング・ムーンという高校生に会う前には、孫と二人でよく話をしました。言葉が通じなければどうしよう、食事はどうしよう等々、その都度「なんとかなるか」といういい加減な気持ちで納得していました。

16年10月3日午後10時30分迎えに行く約束が、私達は午後9時30分頃家を出たので、あまりにも時間がありませんでした。市役所の方々もそわそわしていました。

間もなく到着したジェイ・サング・ムーン君に会い、まったく日本人と同じ顔をしているのにびっくり、孫と顔を見合わせました。ジェイ君

は、韓国生まれのカナダ人で、韓国育ちの孫と共通できる人でした。帰り道から、もう随分前から知っているかのように会話ができて、私は孫が二人できたような気持ちで嬉しかったです。二ヶ月はあっという間に過ぎましたが、私には緊張の二ヶ月でした。現在育ち盛りの二人の食事のこと。お世辞であることは解っていましたが、何でもおいしいと喜んで食べてくれました。朝6時から朝食の用意、お弁当二人分。8時すぎに二人が学校へ行った後、私も仕事に出勤。

夜は6時に食事の用意、二人は待っていましたとばかりに、今夜は何かと聞きに来る。お肉類が好きな二人は今夜の献立に興味湧き上がる。私なりに楽しみながら日々過ごしていました。

帰国する前の夜、鍋焼きを食べに行きました。帰り際、孫が「外に出て」と私の腕を引っ張るのです。今日のこの鍋焼きは“お世話になったお礼に”とジェイ君がお金を払うというので、“ありがとう”と言ってくれ、と言うのです。しかし私はジ

ェイ君のサイフの中身を知っていたのです。いくらあるのか、明日帰るのに大丈夫なのかと聞いていたのです。三千元しか入っていなかったのです。それなのに800円×3個です。素直に喜んでご馳走になりました。私は嬉しかったことを告げ、無理をして男らしさを出したことを後悔させないようにと「これは私の気持ちだから」と三千元を渡しました。ジェイ君も嬉しそうでした。

来た時には「お母さん」と呼んでくれたのに、帰る日の朝は「おばあさん」と呼ばれ、何かととても淋しく感じました。孫との別れを感じました。

二人分の洗濯も生きがいとなっていました。

学校に行く時、ジェイ君は「お帰りなさい」と大きな声で私に言い、帰ってきた時は「行って来ます」と大きな声で言うジェイ君。最後に反対だということを教えました。彼も笑って帰って行きました。

## ハロウィーンパーティー開催される

深川国際交流協会広報部会 橋向 利勝

去る10月31日、当協会主催としては2回目となるハロウィーンパーティーがプラザホテル板倉を会場に行なわれました。

2回目となる今回は、アボツフォードへの交流事業に参加した生徒、カナダからの交換留学生にもパーティーの企画や、事前の準備、飾り付け等に参加してもらい、充実した内容となるようお手伝いを頂きました。

当日の参加者は中高生約45名。実行委員は各自仮装をして参加者を迎えました。

最初はハロウィーンと言えば誰もが連想するカボチャのランタン作り。ひとり一個ずつのカボチャを目の前にして、まずはカボチャの頭の部分をくり抜く作業から。わたを取り出すあたりで「ヌルヌルして気持ち悪い」という声が聞こえ始めます。続いてマジックでだいたいのデザインを決めて顔作り。のこぎりやカッターを手に、友達同士で相談しあいながら、少しずつ色んな顔ができていきます。最後にでき上がったランタンを会場の端のテーブルにならべ、中にろうそくを入れて会場の明かりを落とすと、ゆらゆら揺れるろうそくの炎に様々な表情の顔が浮かび上がっていきます。作業がひと息ついたら、ここでカボチャのスープのサービス。スープを口にしながら、でき上がったランタンと記念撮影をしながらひと休み。

続いて、深川市の英語指導助手のキースの説明で、水を入れたバケツに浮かべたリンゴを、手を使わずに拾い上げるレクゲームを行ないました。水の上でくるくる回るリンゴにみんな悪戦苦闘。あちこちで悲鳴のような叫び声があがり会場は盛り上がりました。

こうして1時間半はあっという間に過ぎ、みんなお手製のランタンと、ハロウィーンにちなんだお土産を手にしてパーティーは終了しました。



## インターナショナルデー開催

深川国際交流協会副理事長 宇野 富美子

2004年6月18日恒例の“International Day”が、中高生・外国人(9名)を含めて参加総数106名で開催されました。

回数を重ねる度に、中高生の生徒間にも、このイベントが定着してきたことは大変喜ばしいことです。

当初国際ソロプチミストが、国際的な青少年育成の目的で行っていた行事を、国際交流協会設立と共に受け継ぎ現在に至っておりますが、最初の頃は参加者も物怖じして積極的に外国人と触れ合うことができず、ソロプチミストメンバーや協会のサポートが必要でしたが、今では中学校でのAET制度、アボツフォード派遣、高校生の交換留学制度など生徒達の態度もすっかり変わり、むしろ頼もしくさえも感ぜられるムードになって来ました。

このことも、深川市が進める、住み良い街づくりの一貫として、国際交流事業に力を注いでいる効果かと思えます。

中高生の皆さんも、いろいろのチャンスを逃さず国際的視野を広げるためにも、今後とも積極的に参加を望みます。

また、ソロプチミスト団体ばかりでなく、例えばロータリークラブ、ライオンズクラブ、ボランティア各団体にも、このイベントに参加協力して頂けるよう期待したいと思います。



## 2004 地球の森プロジェクト

10月16日、17日の両日14カ国26名の大使館関係者をお招きして2004地球の森プロジェクトを実施いたしました。このプロジェクトは2002年より実施しており、今回で3度目の実施となるもので、今回を最終年としております。これまで、3年間で400本もの植樹を実施し、深川市の緑化活動と国際交流が実施されました。

通訳として参加されました上垣さんの感想を掲載いたします。

## 地球の森プロジェクトの感想 \_\_\_\_\_ 深川国際交流協会理事 上垣 由紀子

21世紀に美しく平和な地球を残すため世界の人々と協力して、地球環境、食糧問題を考えていこうという高邁な主旨のもとに開催された「米米フォーラム」。一緒に米作りを体験した世界の国の大使関係者と、さらなる交流を続けようといわれた植樹事業「地球の森プロジェクト」も今年で早や3回目となった。



10月16日、14ヶ国26名の大使、大使関係者が夕方5時中央公民館に到着とのことで、ホストファミリーの皆さん、市の企画の方々、私達ボランティア通訳は、緊張の面持ちで待機していた。交通事情で少し遅れてバスが到着。冬物のオーバーコートを着込んだ人、カジュアルな軽装の人、ドレス姿の人、様々な顔立ち、様々な文化を持つであろう人達が、次から次と降りて来た。「こんにちは」「よろしく」満面の笑み。

中南米のホンジュラスの大使夫妻、アフリカのマラウィ大使夫妻、コートジボワールの参事官。アジアのミャンマー、イラン、ヨーロッパのセルビアモンテネグロ等々…。めったに行くことができない遠い国からのお客様達。一人一人の笑顔を見て私達の緊張もとけ、各々のホストファミリーと対面した。その後、歓迎レセプションのプラザホテル板倉へ移動した。

歓迎会では、市長はじめ市民代表の方々、ホストファミリー150名が暖かくお迎えした。国際交流協会からは小瀧理事長と高田さんをはじめ6名がボランティア通訳として参加した。深川じゃんじゃん傘踊りも披露される中、各々のテーブルでは国ごとに話の花が咲き、楽しいひと時が繰り広げられた。私の担当はウクライナの大使ユーリ・コステンコ氏で大柄で暖かい印象の大使だった。日本とのつながりの話で、まず昭和の名横綱“大鵬”の父親はウクライ

ナ人であった事を聞かされると、コステンコ氏の風貌が、少し大鵬に似ているような気になるから不思議である。ウクライナの国旗は、上下に水色と黄色の2色の色使いから成っているが、水色は青空を黄色は小麦の畑を表すそうで、目の前に訪れたことのない肥沃な広大な穀倉地帯がまるで浮んでくるようだった。そばも栽培しているそうで、お国柄が違くとまらめてスープに入れて食べるそうです。鉄鉱石を日本に輸出して、それを採掘する為の巨大な車を輸入する事等、興味深い話をたくさん伺えた。ホストの田島家で一晩過ごした翌日は、コステンコ氏は、もうすっかり“ユーリー”という愛称で呼ばれていた。

2日目は藤谷果樹園で、まずりんご狩りが行われた。あいにくの曇り空だったが、時折り日が差すと、台風にも負けずに大きく実ったりんごがつややかに赤く、大使達は楽しそうにもぎ味わっていた。



いよいよ植樹祭。会場の三瓶山では深川市長はじめ来賓の方々、そして小中学校の子供達を含む300名ものたくさんの市民の方々が、開会式を待ちかねていた。深川市長の「今日の日を皆さんの新たな記念日にして下さい」というあいさつの後、しらかば、エゾヤマザクラ、イタヤカエデ、カシワ等、苗木約140本の植樹作業にとりかかった。

彩りの丘の急な斜面を、コステンコ大使を先頭に中学生6名が続き、軍手にスコップを持って白い息を吐きながら登り、自分達の番号の地点にたどり着いた。細い苗木をあらかじめ掘られていた穴に入れ、まっすぐ立つように注意しながら土をかけ、「元気に大きく育てね」と願いを

かけながら根の廻りをしっかりと踏み固めた。苗木は細く寒そうに見えたが、でもすくとそこに立ち上がったように思えた。



私達の毎日の暮らしは、生活の場である地域だけ、また一つの国だけではもはやなりたたなくなっている。経済にしる、環境問題にしる、地球規模で考え解決していかなければならない時代になっている。そのために一番大切なのは人と人の関わり、協力体制なくしては始められないことがたくさんある。他国の人と顔と顔を合わせ、皆の手で一本の樹を植えたこの作業は、一つのセレモニーのようでありながら、実はこれからの地球の有り方、あるべき姿のモデルのように思えた。雪の降る日を予感させるような寒い日だった。彩りの丘から眼下に稲刈りが終わったきれいに区分された田園が広がっていた。紅葉は終り木々の葉は、色を落とし来たるべき冬に備えようとしているようだった。10年後、20年後、子供達が育つように彩りの丘の木々達も青々と葉を繁らせ、豊かな深川の自然の一部となっていることだろう。

引き続き、まあぶの芝生の広場で14ヶ国の国ごとにテントが張られ、昼食交流会が行われた。ジンギスカンを焼きながら暖をとる、大使達ももちつきに挑戦したり、よさこいソーランに飛び入りで踊る大使もいて楽しい一時を過した。「米米フォーラム」から「地球の森プロジェクト」は3回をもって終了した。それは、自然生態系の中での稲作の役割、森林の大切さを今一度確かめ、世界的な視野でふるさと深川を見つめ、未来につなげる希望のプロジェクトだったと思う。

# 深川国際交流協会 Fukagawa International Friendship Society

## ホームページリニューアルのお知らせ

深川国際交流協会ホームページは2001年に開設し、幅広く皆さん方に閲覧して頂いておりました。さて、開設以来丸4年を経過したこともあり、このたびリニューアルオープンいたしました。これからも深川の地域国際化に向けた情報を幅広く伝えて参りますので、ご意見・ご要望がありましたら下記までお寄せください。

深川国際交流協会ホームページ

<http://fukakoku.net>

深川国際交流協会 E-Mail

[postmaster@fukakoku.sakura.ne.jp](mailto:postmaster@fukakoku.sakura.ne.jp)



↑ '04 ハロウィーンパーティー



↑ '04 ハロウィーンパーティー



↑ '04 ハロウィーンパーティー



↑ '04 ハロウィーンパーティー



↑ 深川市交換留学生出発



↑ 地球の森プロジェクト 歓迎レセプション



↑ 地球の森プロジェクト よさこいソーラン



↑ 地球の森プロジェクト 植樹祭

**募集しています！**

- ☺ 「ホストファミリー」 …………… 現在 42 家族の方が登録されています。
- ☺ 「通訳・翻訳ボランティア」 …… 現在 26 名の方が登録されています。
- ☺ 「深川国際交流協会会員」 …… 現在、一般会員 99 名、学生会員 10 名、賛助会員 42 団体です。



【問い合わせ先】深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

# 世界に発信する深川地球市民



<http://fukakoku.net/>

【広報誌発行責任者】谷口保幸（広報部会部会長）

【広報誌編集担当】深川国際交流協会 広報部会

編集長：南部雄二 副編集長：橋本 信

編集委員：池田敏江・稲田伸人・今井敏雄・上垣由紀子・北本清貴・小橋厚子・鈴木美彦・高橋昇

寺下良一・橋向利勝・三ツ井隆博